

第3次横浜市生涯学習基本構想（素案） 市民意見募集の実施結果について

「第3次横浜市生涯学習基本構想」の策定にあたって平成23年9月1日に素案を公表し、市民の皆様からの意見募集（パブリックコメント）を実施しました。その実施結果と本市の考え方をまとめましたので、お知らせします。

1 実施概要

「第3次横浜市生涯学習基本構想」（素案）を配布し、添付のハガキによる郵送、FAX、電子メールでご意見をお寄せいただきました。

(1) 実施期間 平成23年9月5日（月）から平成23年9月30日（金）まで

(2) 募集の周知方法

① 素案冊子（1,200部）の配布

配布先：市役所市民情報センター、区役所広報相談係、区役所地域振興課（保土ヶ谷区地域協働課）、各区市民活動・生涯学習支援センター、横浜市市民活動支援センター等

② 本市教育委員会生涯学習ホームページ「はまなび」に素案を掲載

2 意見募集結果

(1) 意見提出状況

投稿方法	応募数（意見数）
郵送	12通（14件）
FAX	0通
電子メール	6通（17件）
持参	0通
合計	18通（31件）

(2) 施策体系別意見数

施策体系	意見数
全般	4件
第1章 第3次横浜市生涯学習基本構想の策定にあたって	6件
第2章 第3次横浜市生涯学習基本構想が目指すもの	2件
第3章 第3次横浜市生涯学習基本構想の展開	3件
1 基本方針1「ちから」を育む	4件
2 基本方針2「ちから」を生かす	0件
3 基本方針3「ちから」をつなぐ	10件
その他	2件
合計	31件

(3) ご意見への対応状況

対応状況	意見数
(1) ご意見を反映し、素案を修正したもの	3件
(2) 素案と同趣旨及び賛同いただいたもの	2件
(3) ご意見として参考とさせていただいたもの	21件
(4) その他の意見	5件
合計	31件

3 市民意見とそれに対する考え方

(1) ご意見を反映し、素案を修正したもの

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
全般	第1章これからの生涯学習に期待される役割について。 生涯学習は、人と地域社会をつなぐことを初期の頃から目的としていたと思います。最近、その必要性がさらに増加してはいますが、「最近あらたに、期待されてきている」わけではないので、「目的として行うことが期待されてきています。」を「目的として行うことが、今まで以上に期待されています。」に変更したほうが良いのではないかと思います。（その他助詞等の使い方への修正意見。）	ご意見の趣旨を踏まえ、「目的として行うことが期待されてきています。」を「目的として行うことが、今まで以上に期待されています。」に修正するなど、必要な箇所を修正しました。
第1章	2(4)市民活動の活発化について。 本稿による表現は、「ボランティア活動の高まりがNPO法人を増加させた」と、誤解され易い表現であります。 NPO法人においては、非営利事業部門と営利事業部門があり、営利事業で得た利潤を非営利部門活動の支えとなる原資としております。 「ボランティア活動に対する関心が高まり」を「社会貢献活動に対する関心が高まり」と変更しておくべきと考えます。	ご意見の趣旨を踏まえ、「ボランティア活動に対する関心が高まり、特定非営利活動促進法(NPO法)が制定され、」を「ボランティア活動に対する関心が高まったことにより、市民が行う社会貢献活動の健全な発展を促進すること等を目的として特定非営利活動促進法(NPO法)が制定されました。」に修正しました。
第3章 基本方針1	情報を活用する「ちから」の育成における情報の意味について。この基本構想に限りませんが、横浜市では情報を狭くICTに限るようにとらえているように思われます。情報を正しく活用するには、インターネットだけでなく、紙媒体資料を含めさまざまなメディアからの情報を比較検証する姿勢が大切だと思います。 情報=ICTという印象を与える書き方には疑問を感じます。	ご意見の趣旨を踏まえ、「ICTの特性を生かし、」を「ICTや様々なメディアの特性を生かし、」に修正しました。

(2) 素案と同趣旨及び賛同いただいたもの

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
全般	生涯学習には三つの段階がある。第一は、自分で勉強を楽しむ(第1人称の生涯学習)。第二は、勉強の楽しさを周りの人に伝え、ともに学ぶ(第2人称の生涯学習)。第三は、楽しく学んだ成果を地域に還元する(第3人称の生涯学習)。 「第3次横浜市生涯学習基本構想」は第1人称から第3人称に向けた生涯学習の方向性を明確に示していると考え、評価できます。	生涯学習の更なる充実を目指し、取り組んでまいります。
第3章 基本方針1	年金生活で豊かに残りの人生を過ごすための障害は三点。①従事してきた仕事以外に関して無知、②自宅周辺に友人がいない、③住んでいる地区に関してまるで無知。このうち①については大学の生涯学習でカバーできますが、②と③については、現在港北区で行っている市民の自主で行う生涯学級が適していると考えます。 また、第3次基本構想(素案)の第3章基本理念には全面的に共感します。定年退職者が残りの人生を豊かに過ごすためには、第3章の基本方針1の「ちから」を育むことが必要不可欠です。第3章の基本理念に基づいた生涯学習を実施していただくことを切に希望します。	生涯学習の更なる充実を目指し、取り組んでまいります。

(3) ご意見として参考とさせていただいたもの

項 目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
全般	<p>総じていい方針を書いているように見えますが、具体的なプランが見えません。この構想を具体的な施策に落とし込む時の落とし込み方にこそ意味があると思いますので、ぜひ「ひとを育てる」施策を展開して欲しいと思います。</p>	<p>本構想は、今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すことを目的としておりますので、いただいたご意見については、今後の具体的な施策を推進する際の参考とさせていただきます。</p>
全般	<p>みなさんの学びを積極的に支援しますというような言葉を入れていただけたらうれしいです。</p>	<p>いただいたご意見については参考とさせていただきます。</p>
第1章	<p>茶道が義務教育で学べるようになる事祈っております(原文ママ)。</p>	<p>いただいたご意見については参考とさせていただきます。</p>
第1章	<p>不完全雇用により雇用者の流出・流入(移動)が多く、地元を愛する気持ちが少なくなっている様に思われます。地元雇用の創出に“ちから”を入れ、老若男女を問わないふるさと意識が持てる社会を作りましょう。</p>	<p>いただいたご意見については参考とさせていただきます。</p>
第1章	<p>2(3)人間関係の希薄化について。 高齢者でも、女性高齢者は大いに盛り上がり楽しんでおります。すなわち、話材が多く見知らぬ方々でも、容易に仲良くなる。一方の高齢男性は定年後の居場所がなく、仕事関係の話には付き合うが、テレやで人見知りが多いのも事実である。世の中には、高齢男性陣を対象とした居場所が少ないのも事実である。 2(4)市民活動の活発化について。 高齢者で男女差がわかるデータをとると、高齢男性の想いが出てくると思います。すなわち、男性は生涯、学ぶ心(論理的に)を持っておりませんが、それを満たす環境が不足していると思う。</p>	<p>年齢や性別にかかわらず、市民の皆様を対象として生涯学習を推進してまいります。</p>
第1章	<p>3これからの生涯学習に期待される役割に「明るい、夢のある地域の未来図を新たに作成し、専門性を高める人材育成を強く出し、行政と市民との共有目標を持つような施策にしたい。」を追加。</p>	<p>未来図については、「横浜市中期4か年計画」で示されている本市の未来図「つながるしあわせ～安心と活力があふれるまち・横浜～」の考え方と合致させております。また、人材育成については、第3章3方向性(2)「「ちから」をつなげる人材の育成」の中でお示しており、今後も人材育成を推進してまいります。</p>
第1章	<p>生涯学習基本構想の位置づけとして横浜市基本構想と中期4か年計画との関係は書かれています。横浜教育ビジョンとの関係は書かれていません。そこにはぜひ触れるべきだと思います。「幼年期から高齢期までのそれぞれのライフステージにおける課題を解決する「ちから」の育成」という部分にその意味をこめているのかもしれませんが、教育ビジョンとの関連はぜひ考えておいてほしいことと思います。</p>	<p>本構想は、今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すことを目的としており、市政運営の根本となる「横浜市基本構想」、「中期4か年計画」の考え方を踏まえております。また、「横浜教育ビジョン」も「横浜市基本構想」、「中期4か年計画」と連動しており、同じ考え方に基づいて施策を推進しております。</p>
第2章	<p>「ちから」の範囲について。社会で不足して来ている「倫理・規律」の視点を含またらどうでしょうか。自己責任、地域ルール、危機管理、地域の活動など。</p>	<p>「倫理・規律」については、第3章1方向性(1)の「個性と多様性を尊重しあう「ちから」の育成」として触れております。</p>
第3章	<p>第2人称の生涯学習(勉強の楽しさを周りの人に伝え、ともに学ぶ)、ともに学ぶ生涯学習の部分が、やや希薄である。第2人称の生涯学習で共に学ぶ仕掛けは、十分に練り上げられた戦略のもとに、行政の側でも用意する必要があります。</p>	<p>本構想は、今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すことを目的としておりますので、いただいたご意見については、今後の具体的な施策を推進する際の参考とさせていただきます。</p>

項 目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
第3章	<p>市民がだれでも無料で情報を得ることができる機関である図書館は、生涯学習のための重要な機関です。もっと生涯学習の拠点として、大きく扱うべきだと思います。</p> <p>「ちから」をつなぐ面だけでなく、育成、生かす面でも図書館はその力を発揮できます。現在生かせていないとしたら、それは図書館の数が少なすぎるから。地区センターやコミュニティハウスとネットワークを組んで分館化するなど新図書館を建設しないで増やす方策を考える方向に向いてもらいたいと思います。</p>	<p>図書館をはじめとする社会教育施設では、生涯学習の拠点として、市民の皆様の学習活動全般を通じた学びを支援してまいります。</p> <p>図書館ネットワークの充実については、今後研究してまいります。</p>
第3章	<p>初めて生涯学習企画に参加して下記の点を学びました。</p> <p>(1) 多様な人との交流が出来、学ぶ点が多い。</p> <p>(2) 公的機関なので講師との接触もスムーズで安価な講演、有意義な講演が提供可能。</p> <p>(3) 多様性豊かな地域のちからの育成強化拡大を望みます。</p> <p>(4) 多様な学習の場の提供、住民とのつながりを含め大変有意義なものと思いました。</p>	<p>市民の皆様にとって生涯学習が有意義なものとなるよう施策を推進してまいります。</p>
第3章 基本方針1	<p>方向性(1)「生きがいをもって豊かに暮らせる「ちから」の育成」について。次の2つの視点を追加したらどうでしょうか。</p> <p>① 年金の少ない時代を生きるには、専門性を持って収入を得る必要があります。生涯使える資格の奨励。</p> <p>② 地域で助けあい、支えあうためには、町内会での「ちから」(キャリアアップ)を体系化し、育成する時期に来ています。</p> <p>方向性(2)「地域の課題を解決できる「ちから」の育成」について。「地域で生活する基盤の学習の充実」が必要です。例) 就労、年金、福祉、健康、対人関係など生活基盤の学習は必須となります。高齢者のワーク・ライフ・バランスの視点も必要です。</p>	<p>町内会など地域コミュニティについては、第3章1方向性(2)「地域の課題を解決できる「ちから」の育成」の中で触れております。また、学習内容の充実については具体的な施策の中で推進してまいります。</p>
第3章 基本方針1	<p>生涯学習は 40～50 才以上対象という印象。ゆりかごから墓場まで連続性のある学習を世代間交流しながら続けられたら良い。</p>	<p>全世代を対象として生涯学習を推進してまいります。</p>
第3章 基本方針3	<p>身近な施設による学びの支援について。現在、地区センターが学びの支援にどれほどの力を発揮しているのか疑問に思います。横浜市の地区センターは他市の公民館とは違って、土地を耕し種をまくような社会教育的側面は弱いと思います。もっと身近で、はじめの一歩的な学びの講座を受けられることが必要です。せめてかつてはあった「生涯教育講座」市民が企画した講座に補助金を出すという施策は必要だと思います。</p>	<p>地区センターでは、様々な講座の開催等、学びの支援に取り組んでおります。また、区民企画の講座等への補助事業を行っている区役所もあります。</p>
第3章 基本方針3	<p>全体として評価できる内容だと存じます。ただこの構想をどのように具体化していくのかについては抽象的な印象を受けました。</p> <p>「学びあう人生、ともに育つ地域へ」の目標は図書館活動の充実こそが要になると考えています。地域にあって子どもからお年寄りまでわけへだてなく利用でき、立ち寄り、交流できる施設は図書館をおいてありません。</p> <p>ほかの施設、学校、交流プラザなどとの連携も核となる施設、活動があつてこそ。</p> <p>図書館の充実、市民との連携の強化が重要だと考えます。</p>	<p>図書館をはじめとする社会教育施設や地区センターなどの身近な施設とのネットワークづくりを今後も推進し、市民の学びを支援してまいります。</p>

項 目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
第3章 基本方針3	方向性(1)は、身近な施設、社会教育施設、大学・民間企業・NPO等がそれぞれ、市民の「ちから」をつなぐと読める。それぞれの施設・機関との有機的連携が必要であり、生涯学習の拠点として「図書館」の果たすべき役割を明確に位置づけるべきである。	身近な施設、社会教育施設をはじめとする多様な生涯学習関連機関の有機的なネットワーク形成を推進してまいります。また、生涯学習の拠点として、図書館をはじめとする社会教育施設での学びの支援やネットワークづくりを推進してまいります。
第3章 基本方針3	民間企業とNPOの大いなるパートナーシップ構築が生涯学習活性化にとって望ましいと考えます。 「ヒト」が「モノ」を創り、「カネ」を生むという「ヒトモノカネの好循環」により、社会貢献活動を活性化することが必要です。 私共は、経営の安定化という観点を踏まえて、企業とNPOの大いなるパートナーシップ構築による社会貢献を目指してきました。民間企業との連携が最も有効な手法であり、これが生涯学習活性化と言う観点で最も相応しいと考えた経緯があります。	民間企業、NPO等生涯学習関連機関の連携は生涯学習において重要であると考えております。
第3章 基本方針3	「つなぎ」の役割を果たすコーディネーターだけではなく、市民による新しい地域貢献活動を作り出すプロデューサー役の人材が強く求められているのではないのでしょうか。プロデューサーの必要性を「基本構想」に加えてはいかがでしょうか。	コーディネーターなどの人材育成を推進する中で、プロデューサーの必要性についても今後検討してまいります。
第3章 基本方針3	ボランティア活動者の顔が一般市民から見えない。ボランティア活動者がプレイヤーとして一般市民から見え、市民に歓迎されることから、地域は活性化されます。ボランティア活動者の顔が一般市民に見える仕組みを作るープロデュースするーのは、行政の役割でしょう。この意味では、「基本構想の方向性」は抽象的で、何をどのように行うのかという具体性に欠けています。 地域のために活動するグループの市民への紹介、行事の案内などを行政によって情報提供して頂ければ、活動するグループの励みにもなり、地域活性化にもなるでしょう。これは、ボランティア活動のネットワークづくりにつながります。	本構想は、今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すことを目的としており、具体的な施策を推進するための指針となります。いただいたご意見については、今後の具体的な施策を推進する際の参考とさせていただきます。
第3章 基本方針3	多くの音楽活動はボランティアになりやすいという特徴を持っております。しかし、現状の日本は、環境問題、国際社会の一員としての存在、若年層教育、高齢者問題等課題が山積であり、心の面でも、思いやりの軽視と自己中心主義、礼節の欠如、国力低下、経済効率一辺倒に走った情緒を忘れた行動等危機的状況にあります。その意味で、音楽は勿論、文化芸術、スポーツは重要な位置付けにあります。	いただいたご意見については参考とさせていただきます。
第3章 基本方針3	絵を習ってみたいのでそのような講座を作ってください。それから、古代史にも興味があります。図書館などで講座をやっていただけるといいのですが。	いただいたご意見については参考とさせていただきます。

(4) その他の意見

項 目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
第2章	基本理念について。市民ひとりひとりがいきいきと暮らせる「ちから」⇒市民ひとりひとりがいきいきの達成を目指す「ちから」を育み、に修正。	本構想は、個人が生きがいを見出し、達成するだけでなく、「つながりながら」いきいきと暮らせることを目指しております。生きがいについては、基本理念を実現するために設定した基本方針1「「ちから」を育む」の中で触れておりますので、基本理念は素案のままいたしました。
第3章 基本方針3	市民が学習ニーズに応じて、学び続けることができる環境の整備の一環として、生涯学習拠点（大学、カルチャーセンター、図書館、博物館、美術館、地区センター、コミュニティハウス等）へのアクセスの手段としての公共交通機関に対する『学割』制度の導入を望みます。	「学割」制度は学生・生徒を対象とした制度であり、図書館や博物館など多くの市民の皆様が不定期に利用する社会教育施設等への制度導入はなじまないものと考えております。
第3章 基本方針3	もっと図書館を作ってください。	現在の本市の財政状況は非常に厳しく、限られた財源のなかで図書館運営を行っており、ご提案いただいた図書館の増設については、実施することは困難な状況です。図書館から遠い地域には、移動図書館「はまかぜ号」が巡回し、図書の貸出を行っています。また、図書館以外にも、地区センターの図書コーナーやコミュニティハウスでも図書の利用ができます。
その他	小、中学校において課題を解決する「ちから」を育成するためには、学校図書館の充実と教育に活用することが欠かせないと考えますので、お金がないからと、いつまでも学校図書館に専門職員（学校司書）を配置しないでボランティアに頼る施策はいかがなものかと思えます。	学校図書館への司書教諭の適正配置及び学校図書館支援スタッフによる学校図書館の支援強化に努めてまいります。
その他	「学校図書館」も生涯学習の一環として重視し、基本構想に位置づけるべきだ。	本構想は、今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すことを目的としており、具体的な施策を推進するための指針となります。学校図書館については、「横浜市子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成 23 年3月策定）に基づき、今後も充実に努めてまいります。